

JBICは、開発途上国の経済や社会の発展、福祉の向上のために、ODA(政府開発援助)の大きな柱である円借款業務を実施しています。

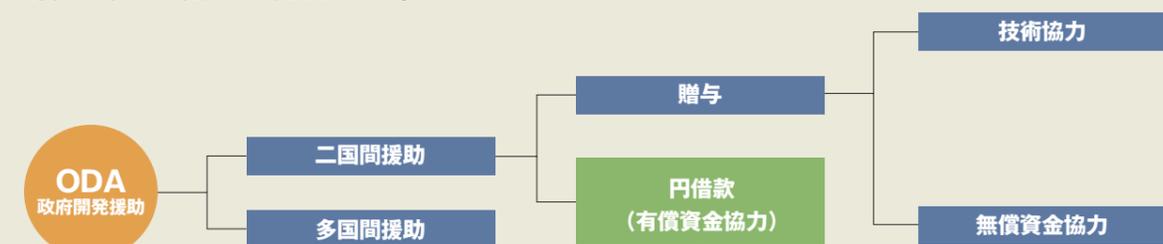
開発途上国の経済開発や福祉の向上に寄与するために、先進国の政府または政府系機関が、資金や技術の提供を通じて協力するしくみがODA(Official Development Assistance:政府開発援助)[※]です。このうち円借款は、低利で長期の緩やかな条件の下に、円貨を貸し付ける援助のことをい、当行が実施しています。

※ODAはグラント・エレメント(条件の緩やかさを示す指数)が25%以上。



ODAの種類と円借款

ODAは、開発途上国を直接援助する二国間援助と、国連などの国際機関を通じて援助する多国間援助に分けられます。また、二国間援助には、形態別に贈与と円借款(有償資金協力)があり、このうち贈与はさらに無償資金協力と技術協力とに分類されます。ODA全体に占める円借款の割合は、約3割(2002年の支出純額ベース)となっています。



円借款

自助努力を支援

日本のODAは、開発途上国が自立に向けて主体的に取り組む「自助努力」を重視しています。円借款は長期に分割して返済してもらう援助です。開発途上国は円借款の資金を無駄なく活用し、経済や社会の開発と発展を早く実現するよう努力しています。このように、自助努力の強い後押しになることは、円借款の大きな特徴です。

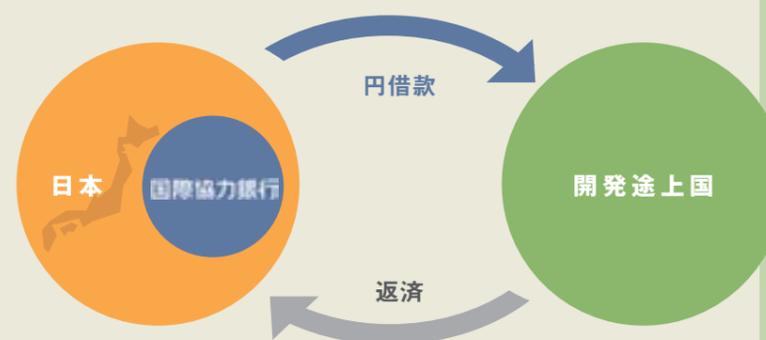
少ない負担で大きな効果

円借款は、開発途上国から資金が返済されることから、多くの資金を必要とする事業に対して、少ない国民負担で支援を行うことができます。

JBICの役割

経済・社会の基盤整備を中心に、貧困・環境問題の解決を目指します

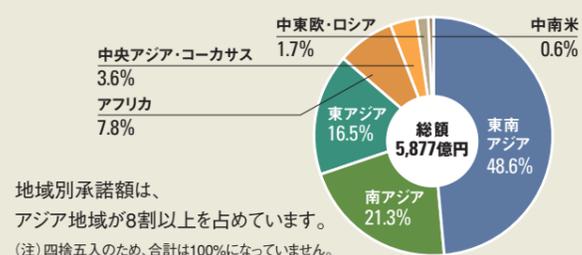
円借款によるインフラ整備は、開発途上国の経済、社会の発展や安定をもたらすと同時に、貧困削減にも寄与します。また、当行は貧困層への直接的な支援や環境改善・保全のための支援も行っています。



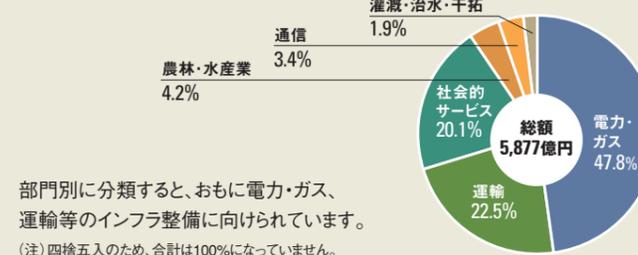
地域——アジア中心

円借款は、1958年にインド政府への資金の貸付けから始まりました。それ以来、円借款による支援は、アジアを中心に世界各地の開発途上国100カ国近くに広がっています。

地域別承諾状況(2003年度)



部門別承諾状況(2003年度)



- 電力
- 道路
- 鉄道
- 通信
- 灌漑
- 上下水道
- 教育